

大阪市立榎本小学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学力の向上】 ① 本年度の学習理解度到達診断（しんだんテスト）の正答率8割以上の児童の割合を、全学年で昨年より向上させる。（カリキュラム改革関連） ② 本年度の「学校アンケート」で、「授業がわかる」の項目について、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答する児童の割合を、低…75%、高…70%以上にする。（カリキュラム改革関連） ③ 「26年度授業アンケート」で、「お子さんは、授業の内容がわかるようになっていきますか」の項目について、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答する保護者の割合を、全学年で65%以上にする。（マネジメント改革関連）	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【習熟度別少人数授業の実施】 国語・算数の習熟度別クラス編成時にレディネステストや児童アンケートを実施し、適正なクラス編成をするとともに、教材の開発を行う。（カリキュラム改革関連） 指標 単元ごとにレディネステストやアンケートをもとにクラス編成を行う。	B
取組内容②【言語力や論理的思考能力の育成】 読解、記述、コミュニケーションなど、多様な言語活動を、各教科において実施する。（カリキュラム改革関連） 指標 言語活動の取り組みを、全ての学年で計画的に行う。	B
取組内容③【家庭・地域・外部諸団体との連携推進】 学級文庫および習熟教材を充実させ、家庭・地域・外部諸団体との連携のもと、読書習慣の定着や各教科学習の理解を進める。（カリキュラム・サポート改革関連） 指標 P T Aや地域・各種団体・学生などのボランティアに多く参画してもらう。	B
取組内容④【研究授業を伴う校内研修の充実】 全学年・ひまわり・ひかりの会で研究授業を実施するとともに、各種研修会を行い、授業力・対応力の向上を図る。（マネジメント改革関連） 指標 年間7回以上の研究授業	B
取組内容⑤【研究授業を行う若手教員の育成】 全教職員総がかりで、若手教員の育成に取り組む。（マネジメント改革関連） 指標 全若手教員が研究（公開）授業を実施する。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>① ～⑤に関しておおむね計画通り進んでいる。</p> <p>ゆめはく・けん玉・相撲をはじめ、より多くの児童が興味・関心を高められる活動に取り組んできた。実際に触れる・体験することで、声に出して感想を伝え合うことや、思いを書き記すことがスムーズにでき、その経験を活かしていくことで、各教科における多様な言語活動に繋がりを広げることができてきている。</p> <p>学級文庫については昨年度より計画的に購入を進め充実してきた。ボランティアによる読み聞かせにも多くの児童が参加をし、読書習慣の定着につながってきている。</p> <p>今年度は、校内研究のほかに「学び続ける教員サポート事業」という新たな取り組みも加わり全教員が研究授業を行った。それにより年間 50 本近く行われ、授業力向上に努めるとともに、若手・ベテランがお互いを刺激し合うことで若手教員の育成にも取り組んだ。また、児童理解研修会を持ち、個に応じた指導の向上にも努めている。</p>
今後への改善点
<p>今年度すでに 50 本近くの研究授業を終了しているが、全員がすべてを参観することは難しい。今後は参観方法と伝達方法について検討し、効果的な指導力向上に向けた取り組みとなるよう努めたい。</p>

大阪市立榎本小学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

年度目標	達成状況
【道徳心・社会性の育成】 ① 本年度の「学校アンケート」の「友だちとなかよくできている」「私にはいいところがある」等の項目について、「よくあてはまる」と回答する児童の割合を、昨年度より5ポイント以上増加させる。（カリキュラム改革・サポート改革） ② 本年度の本校の「いじめアンケート」の「仲間はずれにされる」「嫌なことをいわれる」の項目について、「0」を目指す。（カリキュラム改革・サポート改革） ③ 生活指導上の対応件数を、「毎日3件程度」に減らすとともに、保健室対応件数を、「毎日20件程度」に減らす。（カリキュラム改革・サポート改革） ④ 児童・保護者・地域が「えのもとの森」を通して、東北地方（陸前高田）と絆を深めることにより、社会貢献の精神（命を思う心情）を育成する。（カリキュラム改革・サポート改革）	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【道徳教育の推進】 児童会を中心に「あいさつ運動」を実施し、あいさつができるようにするとともに、きまりを守るための強調週間を設ける（カリキュラム・サポート改革） 指標 「あいさつ運動」や強調週間を、チェックカードをもとに振り返る。	B
取組内容②【保護者・地域との連携】 「えのもとの森プロジェクトチーム」による「えの森から発信する、心・校内オアシス化計画」を立ち上げ、活動を展開する。（カリキュラム・サポート改革） 指標 月に1回、「プロジェクトチーム」を開き、PDCAサイクルで計画を進める。	B
取組内容③【特別活動】 「縦割り班」や「分団班」編成により、異学年交流を深める。（カリキュラム・サポート改革） 指標 月に1回、縦割り班活動を実施するとともに、毎日の分団活動を充実する。	B
取組内容④【防災教育の推進】 「警備及び防災の計画」「安全対策マニュアル」に基づき、災害時に備えた訓練を実施する。（カリキュラム・サポート改革） 指標 通常の避難訓練と保護者・地域・近隣学校園との合同避難訓練を実施する。	B
取組内容⑤【いじめへの対応】 校内体制を中心に、全教職員で共通理解を図り、対策を講じる。（カリキュラム・サポート改革） 指標 「いじめアンケート」を学期に1回実施する。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
① ～⑤に関しておおむね計画通りに進んでいる。 「えのもとの森プロジェクトチーム」を立ち上げたことにより、継続的かつ児童主体となる整備・活用の取り組みが増えつつある。自然愛護の意識の高まりと共に、社会性・創造性も育まれてきている。 いじめ問題については、教職員が同じ視線で子どもたちと関わり持つことが重要である と考える。そのためアンケートも活用しながら、教職員同士が連携し「早期発見・早期対策」に努めている。
今後への改善点
自然災害に対する認識が変化しつつある中で、様々な状況に応じた対応がとれるような防災教育の推進を図っていく必要がある。

大阪市立榎本小学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【健康・体力の保持増進】 ①本年度の新体力テストの数値の伸び率を高めるために、体育科の授業研究会を全学年が計画的に行う。（カリキュラム改革） ②「健康生活習慣」などをとおして、健康生活習慣が身につくようにする。 （カリキュラム改革） ③食事の大切さを知り、自分の健康を考えて食事ができるように、栄養指導を計画的に行う。 （カリキュラム・サポート改革）	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【体力づくりのための活動の開発】 いろいろな外遊びの指導やなわとび・かけ足週間を活用し、体力向上への意識を高める。 （カリキュラム・サポート改革） 指標 いろいろな遊び方を指導し、日常的に体力が高まるようにする。	B
取組内容②【体育科授業の充実】 体育科の授業を計画的に行い、授業の充実を図る。 （カリキュラム改革） 指標 全学年が年間計画に基づいて研究授業を行う。	B
取組内容③【健康生活習慣の確立 1】 健康生活習慣が身につくように、家庭と連携して指導する。 （カリキュラム・サポート改革） 指標 チェックカードや振り返りカードを活用する。	B
取組内容④【健康生活習慣の確立 2】 食事の大切さについて、「給食・栄養だより」等で、児童・保護者に啓発を図る。 （カリキュラム・サポート改革） 指標 「給食・栄養だより」を月1回、発行する。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①～④に関しておおむね計画通りに進んでいる。「がんばる先生」支援事業にも取り組み、大学の教授からも指導を受け、子どもたちの体力向上を目指して、体育科の授業改善に取り組んでいる。また、「榎小ギネス」では様々な取り組みにチャレンジし、学級・学年内で競い合うことで、継続した取り組みとなり、体力づくりにつながってきている。	
今後への改善点	
生活習慣や食については、体力向上には欠かせない問題である。子どもだけでなく、保護者への啓発を図るための工夫を行う。	

大阪市立榎本小学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【教職員の資質向上】 ① 本年度の「学校アンケート」の「授業がわかる」の項目について、「よくあてはまる」が、昨年度より上回るようにする。（カリキュラム改革） ② 本年度の「授業アンケート」で、「お子さまは、授業の内容がわかるようになっていきますか」の項目について、「そう思う」と回答する保護者の割合を、全学年で50%以上にする。（マネジメント改革） ③ 毎日の生活指導上の対応件数が、昨年度より減るようにする。（マネジメント・サポート改革） ④ 本年度の「授業アンケート」で、「学校は楽しいですか」の項目について、「そう思う」と回答する児童の割合を、70%以上にする。（マネジメント改革）	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【コンプライアンスの意識を高める】 教育公務員としてのあるべき姿を常に意識し、各自が日々資質の向上を目指す。（マネジメント改革） 指標 月1回、互いに点検し合う体制を確立する。	B
取組内容②【“体罰絶対悪”の意識を深める】 全教職員が、児童・保護者に寄り添い、自尊感情を高める資質を身につける。（マネジメント改革） 指標 月1回、互いに点検し合う体制を確立する。	B
取組内容③【「教職員としての生き抜く力」を体現する】 全教職員が、日々の課題に挑戦し、乗り越えていく「教職員としての生き抜く力」を身につける。（マネジメント改革） 指標 月1回、各自が自己点検する。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①～③に関しておおむね計画通り進んでいる。 個人情報については、毎月相互チェックを行うことで取り扱いには細心の注意を払っている。また、職員会議・学年打ち合わせ会を通して、自らの立場を認識するとともに、「子どもに寄り添い、自尊感情を高める教育」の実践に向けて取り組んでいる。	
今後への改善点	
点検体制だけに頼らず、日頃から教職員一人ひとりが資質の向上に努められるよう、計画的に研修会を行う。	